**17 『大鏡』**

御の御時の、かたちをかしげにうつくしうおはしけりへりふとて、にり給ひければ、わが御身は乗り給ひけれど、のすそはの柱のもとにぞおはしける。に置きたるに、いかにも見えずとぞ申し伝へためる。のしりの少しさがりⓐ給へるが、いとど(ア)らうたくおはするを、、いとかしこくときめかさせⓑ給ひて、かく仰せられけるとか。

　生きての世死にてのの後の世もをかはせる鳥となりなむ

御返し、女御、

　あきになることの葉だにもかはらずばわれもはせる枝となりなむ

うかべ給へりと聞かせ給ひて、帝、こころみにをかくして、女御には見せさせ給はで、「やまとうたは」とあるをはじめにて、まへの句のことばを仰せられつつ、問はせ給ひけるに、言ひへ給ふこと、にても歌にてもなかりけり。①かかることなむと、は聞き給ひて、御して、手洗ひなどして、所々になどし、念じ入りてぞⓒおはしける。帝の琴をめでたくあそばしけるも、御心に入れて教へなどかぎりなくときめき給ふにの御うせⓓ給ひてこそ、(イ)なかなかこよなく②覚え劣り給へりとは聞こえ給ひしか。の、いみじう(ウ)めざましく、やすからぬものにしたりしかば、思ひづるに、いとほしく、くやしきなり。」とぞ仰せられける。

語　注

村上の御時＝村上天皇の御代。

宣耀殿の女御＝。

内＝宮中。

母屋＝家屋の中で主となる建物。

陸奥紙＝厚手で白く紙面に細かいがある紙。東北（陸奥）で作られた。

羽をかはせる・かはせる枝＝の「」にある「の鳥」・「の枝」を指す。男女や夫婦の愛情の深さにたとえられる。

古今＝『古今和歌集』のこと。

父大臣＝芳子の父、藤原師尹。

箏の琴＝十三弦の琴。

冷泉院の御母后＝村上天皇の皇后藤原。

故宮＝皇后安子のこと。

問1　二重傍線部ⓐ～ⓓの敬語は、だれに対する敬意を表しているか。それぞれ次から選べ。（3点×4）

ア　宣耀殿の女御　　　イ　帝　　　ウ　父大臣

エ　冷泉院の御母后　　オ　作者

ⓐ〔　　　〕　ⓑ〔　　　〕　ⓒ〔　　　〕　ⓓ〔　　　〕

問2　波線部(ア)～(ウ)の語の本文中での意味として、最も適当なものをそれぞれ次から選べ。（3点×3）

(ア)　「らうたく」

　ア　みにくく　　　イ　かわいらしく　　ウ　尊く

　エ　おもしろく　　オ　珍しく

〔　　　〕

(イ)　「なかなか」

　ア　かなり　　　　イ　むしろ　　　ウ　その上

　エ　絶え間なく　　オ　すっかり

〔　　　〕

(ウ)　「めざましく」

　ア　不愉快で　　イ　素晴らしく　　ウ　美しく

　エ　恐ろしく　　オ　思いやりがなく

〔　　　〕

問3　本文から読みとれる宣耀殿の女御の様子として、当てはまらないものを次から一つ選べ。（10点）

ア　髪の毛が非常に長い。

イ　は、かわいらしい。

ウ　目は少したれ気味である。

エ　『古今和歌集』の和歌をすべて暗記している。

オ　箏の琴を上手に弾く。

〔　　　〕

問4　傍線部①は帝のどのような行動を指しているか。本文中から抜き出し、最初と最後の五字を答えよ。（6点）

〔　　　　　　　　〕～〔　　　　　　　　〕

問5　傍線部②について、（3点×2）

⑴　どのようなことをいっているのか。「」という語句を用いて二十字以内で説明せよ。

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

⑵　⑴のようになるきっかけとなった出来事を答えよ。

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問6　『大鏡』と『栄花物語』についての説明として、最も適当なものを次から選べ。（7点）

ア　『大鏡』は紀伝体で、道長の栄華を批判精神をもって描いているのに対し、『栄花物語』は編年体で、道長の栄華を賛美の姿勢をもって描いている。

イ　『大鏡』は編年体で、道長の栄華を批判精神をもって描いているのに対し、『栄花物語』は紀伝体で、道長の栄華を賛美の姿勢をもって描いている。

ウ　『大鏡』も『栄花物語』も編年体で書かれており、『大鏡』は、道長の栄華を批判精神をもって描き、『栄花物語』は賛美の姿勢をもって描いている。

エ　『大鏡』も『栄花物語』も紀伝体で書かれており、『栄花物語』は、道長の栄華を批判精神をもって描き、『大鏡』は好意的に描いている。

オ　『大鏡』は紀伝体で書かれ、『栄花物語』は編年体で書かれており、両作品とも道長の栄華を批判精神をもって描いている。

〔　　　〕

練習問題〈終止形接続の助動詞〉

次の傍線部の活用形を答えよ。

①　犬を二人して打ちたまふ。死ぬべし。 （　　　　）形

②　返り言いかがすべからむ。 （　　　　）形

③　人ににくまれんことこそあるべけれ。 （　　　　）形

④　かならず思ふべき人、問ふべき人は、 （　　　　）形

　次の傍線部の助動詞の意味を、それぞれ後から選べ。

①　京のをもさこそ思ふらめ。 （　　　　）

②　え行くまじけれ。 （　　　　）

③　「花盗人あり」といふなりつるを、 （　　　　）

④　なほ、の宮の人には、さべきなめり。 （　　　　）

ア　現在推量　　イ　打消推量

ウ　推定　　　　エ　断定

オ　存続　　　　カ　願望

キ　意志

【解答】

問1　ⓐア　ⓑイ　ⓒウ　ⓓエ

問2　(ア)イ　(イ)イ　(ウ)ア

問3　オ

問4　こころみに（本をかくし）～せ給ひける

問5　⑴帝の女御に対する寵愛が衰えたこと。（17字）

　　　⑵冷泉院の御母后が亡くなったこと。（冷泉院の御母后の死、も可。）

問6　ア

【練習問題解答+口語訳】

①終止（形）《犬を蔵人二人が打ちなさる。きっと死ぬだろう。》

　②未然（形）《返事はどのようにすべきだろうか。》

　③已然（形）《人に憎まれるようなことであるだろう。》

　④連体（形）《必ず思ってくれるはずの人、訪ねてくれるはずの人は、》

①ア《都からの（手紙）でもさぞかし（興ざめに）思っているだろう。》

　②イ《行くことができないだろう。》

　③ウ《「花泥棒がいる」　という（声がした）ようだったが、》

　④ウ《やはり、この宮の女房として、相当の方のようだ。》